

ルアーアダプター付きセーフタッチ PSV 翼状針（ハイフロータイプ）の基礎的検討

◎佐藤 朱夏¹⁾、宮澤 孝仁¹⁾、篠生 孝幸¹⁾、町田 知久¹⁾
東海大学医学部附属八王子病院¹⁾

【はじめに】採血では、21～23G針を用いることが推奨され、一般的には21～22Gを用いることが多い。針が細くなるほど疼痛が少ないともいわれており、小児や血管が細い場合には23Gを選択する場合もある。しかし、細い針は血液の流入時間が遅いという特徴があり、採血時間に影響を及ぼしている。そこで、採血及び採血待ち時間短縮を目的とし、従来より針壁を薄く内径を大きくした「ハイフロータイプの翼状針」を導入するべく評価を行った。

【対象】従来型：ルアーアダプター付きセーフタッチ PSV セット 22・23G（ニプロ）（以下従来 22・23G）、
新型：従来同型ハイフロータイプ（ニプロ）（以下新型 22・23G）、採血管：ベノジェクトⅡ真空採血管（テルモ）
生化用 5mL、血算用 3mL、免疫用 4mL

【方法】測定は上記の3本を連続採取し各8割を満たすまでの時間を10回測定し、下記の①～④の条件を比較した。人的誤差をなくすため、検討および時間測定者は同一の1名で行った。①生理食塩水での比較:併行精度②Hb濃度（以下Hb）差による比較：総蛋白濃度（以下TP）一定で

Hbが8、12、16mg/dLに調整したpool全血③TP差による比較：Hb一定（12mg/dl）でTP6、8g/dLに調整したpool全血④採血短縮時間：当院での1日の平均採血患者416人の内、翼状針23G 99人、22G 222人に対して、上記の採血管3本を採血したと仮定しHb12mg/dL、TP8g/dLの基準域付近での採取時間差を用い、総短縮時間を調べた。

【結果】①従来23G：27.7秒、C.V.%3.2、従来22G：19.8秒、C.V.%2.9、新型23G：18.6秒、C.V.%3.2、新型22G：15.3秒、C.V.%3.2②〈Hb12mg/dL〉従来23G：53.1秒、従来22G：35.4秒、新型23G：35.8秒、新型22G：26.7秒、③〈TP8g/dL〉従来23G：63.0秒、従来22G：42.6秒、新型23G：41.3秒、新型22G：31.4秒であった。④1日の総短縮時間は約77分となった。

【まとめ】新型は従来型と比べ、流入時間短縮が認められ、新型23Gは従来型の22G相当に値する結果となった。一人当たりの採血時間短縮により待ち時間を含め、患者負担軽減に繋がると期待される。連絡先：042-639-1111(内線4141)